

全国大会に出場して

札幌市立新川中学校
女子バスケットボール部顧問 大西麻未

1. はじめに

私が指導者1年目で経験した、新川中学校が全国出場を果たすまでの約4か月間について、僭越ではありますが、執筆させていただきます。

2. 目標

昨年の新人戦で全道優勝を果たし、注目される存在となっていた彼女たちですが、春季大会では全市大会1回戦目で東月寒中学校に敗戦。

その後、ミーティングで掲げた目標は「全国ベスト4」でした。春季大会での敗戦をきっかけに、新たな目標を掲げ、中体連へ向けての彼女たちの戦いが始まりました。

3. 道外遠征による経験

本番の中体連を前に2つの道外遠征に参加させていただきました。1つ目は、5月に新潟県で行われた「光晴カップ」です。新チーム初の道外遠征で、選手たちも移動の疲れが出たのか、思うようにプレーができませんでした。2つ目は、6月に岩手県で行われた「全国中学校バスケットボール『絆』交歓大会」です。いわゆる「プレ全中」というものです。ここでは、後の全国大会本番で出会うチームが名を連ねていました。実際の全中の会場でプレーができるということで、そのことは選手たちにとって、全国出場の意識を強く持つきっかけとなったように思います。この大会では、予選リーグを1位で通過し、勢いそのままに優勝することができました。この経験が彼女たちの自信につながりました。

4. 全市から全国へ

全市大会も順調に勝ち進み、目標に1歩1歩

近づいていくなか、全道大会で苦戦を強いられることとなりました。帯広西陵戦での延長です。とても粘り強いチームで、最後まで苦しめられました。両チームとも中体連にける強い思いが伝わってくる試合でした。結果は、なんとか勝利し、その後無事全国大会への切符を手に入れました。

全国大会では、プレ全中での経験や自信が緊張を和らげ、いいテンポで試合を運ぶことができ、予選リーグを1位で通過しました。しかし、決勝トーナメントでは1回戦目で敗退。目標であった「全国ベスト4」には届きませんでした。

5. 全国大会を経験して

コーチ陣、口を揃えて出た感想は、予選リーグと決勝トーナメントは全くの別物だという言葉に尽きます。戦い方、雰囲気ガラッと変えて決勝トーナメントを戦います。一方で個々の調子は上に行くからといって変わらず、むしろ安定しているようにも思いました。そこに対応しきれず敗戦してしまいました。

またこの全国大会を通して、試合に出ている5人はもちろんですが、ベンチにいる全員にも拍手を送りたいと思います。出場機会が少ない生徒がほとんどでしたが、すべての遠征に参加し、コートに立つ5人のサポートを全力でしてくれました。様々な想いを胸に臨んだ中体連でしたが、最後の試合のベンチでの様子やコート上の5人全員から、勝ちたいという気持ちが伝わってきました。全国大会の雰囲気を味わえたこと、またその中で、全員で戦えたことが、選手のこれからにつながっていくと思います。

6. 最後に

指導者1年目で全国大会という貴重な経験をさせていただきました。それは、新川中学校に関わるすべての皆様のおかげとっております。心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いたします。